

論文審査結果の要旨

本論文については、博士論文公開審査会（平成31年2月20日、於文学部会議室）において内容説明がなされ、その後質疑応答が行われた。公開審査会で提出された主な論点は、以下のとおりである。

- ①『水滸伝』他版本使用の可能性。
- ②岡嶋冠山から岡白駒が受けた影響の実態について。
- ③講義録分類の妥当性。
- ④澤田一斎が陶山南濤から受けた影響について。
- ⑤和刻本『忠義水滸伝』初集・二集刊行の事情について。
- ⑥中国短篇小説集『小説選言』と「和刻三言」の関係について
- ⑦『今古奇観』諸版本と「和刻三言」の関係について
- ⑧小説観の理解について

本論文は、岡白駒を中心にして、江戸時代における中国白話小説の受容について論じるものである。

中国白話小説の受容は、荻生徂徠らの主唱による唐話（中国語）学習の流行に端を発するが、やがて読み物として楽しむ方向へと進み、やがて読本という新たなジャンルを産むに至る。読本が近代的小説の重要な母胎の一つとなったこと、読本に多用された中国語の白話語彙が一般に広まり、現在の日本語においても広く用いられていることを考えれば、白話小説の受容が日本語・日本文学に今日にまで至る深い影響を及ぼしていることは明らかである。従って、その過程を解明することは、日本語・日本文学について考えていく上で欠かせない重要な問題であることは言うまでもない。にもかかわらず、これまでこの点について十分な考察がなされてこなかったのは、日本語・日本文学と中国語・中国文学双方について十分な知識が要求されること、特にこの問題について考えるにあたり避けて通れない『水滸伝』版本について、正確な知識を持つことが非常に困難であったことに由来する。その意味で、本研究は従来の研究の欠落を埋める大きな意義を持つといってよい。

この目的を達成するために、申請者は『水滸伝』『今古奇観』の複雑を極める版本の状況を的確に把握するとともに、全国各地に散在する多数の岡白駒の講義録を調査し、内容に精密な検討を加え、その実態を初めて明らかにした。更に、講義録本文と澤田一斎による書き込みを徹底的に調査し、『水滸伝』諸版本との関係について詳細な比較検討を行うとともに、その語釈や書き込みについて、岡嶋冠山・陶山南濤ら他の唐話学者の業績との関係を明らかにした。これは膨大な時間と忍耐力を要する作業であり、その点だけでも本論文は高い価値を持つといってよい。

更に重要なのは、調査の結果から、申請者が江戸時代日本において「小説」「言語」のとらえ方が変遷していく過程を描き出している点である。そこからは、近代的な小説や言語に対する観念がどのようにして生まれてきたかの一端が浮かび上がってくる。この点において申請者は、単な

る調査のための調査ではなく、明確な問題意識を持って今日的な課題に取り組み、大きな成果を上げているものと評価される。

以上のように、本論文は、深い問題意識のもとに、膨大な文献に対して精密な調査を行い、重要な意義のある結論を示したものであって、文学研究科の定める博士学位論文審査における評価基準を満たしているものと判断される。よって本委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに値することを認める。